

## 内閣府主催

### 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウム岩手開催

小川岩手大学長がパネリスト、海妻径子副学長・ダイバーシティ推進室長がファシリテーターとして登壇

2024年2月16日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)にて内閣府主催、岩手大学共催の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウムが開催されました。この会は、内閣府の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」参加者の取組やメッセージを発信し、女性活躍促進の重要性や「男性リーダーの会」の認知度を上げることで、地域における「男性リーダーの会」参加の輪を拡大し、地域一体となった女性活躍の推進につなげようとするものです。基調講演では、会員であるアフラック生命保険株式会社の古出社長から、女性活躍推進に関する想いと取組事例のご紹介がありました。基調講演の後には、会員である小川岩手大学長、県内男性リーダーである株式会社吉田測量設計の吉田社長、そして、県内女性リーダーとして信幸プロテック株式会社の村松専務をパネリストに、岩手大学海妻副学長・ダイバーシティ推進室長のファシリテートで、女性活躍推進における組織トップのコミットメントの重要性についてパネルディスカッションを行いました。当日は岩手県内外の企業の代表や社長等、約100名の参加があり、参加者からは「リーダーの声を社内に響かせることよりも、現場の小さな声を100倍にすることが大事、というお話に感銘を受けた」「女性の活躍のキーワードは“安心感と場数”というコメントが印象に残った」などの声が寄せられました。



パネルディスカッションの様子

## 今後の主催事業のご案内

### 岩手大学ブルー・ライトアップ

日時：2024年4月2日(火)17:00~4月3日(水) 23:59

会場：岩手大学正門付近

内容：毎年「世界自閉症啓発デー」の4月2日から8日までは「発達障害啓発週間」です。世界自閉症啓発デー・日本実行委員会では、自閉症をはじめとする発達障害について社会全体の理解を進めるため、シンポジウムの開催やランドマークのブルー・ライトアップなどの様々な啓発活動を実施します。

このことについて、文科省通知「令和6年度『世界自閉症啓発デー』及び『発達障害啓発週間』にかかる普及啓発推進(協力依頼)に賛同し、実施するものです。



## 文部科学省科学技術人材育成費補助事業

### ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)

#### I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン

### 「本気で考える岩手のダイバーシティ～女性活躍の観点から～」 「ジャーナリスト 浜田敬子さんをゲストに迎えた トークショー開催」

2024年1月20日(土)PIカ(研究室主宰能力)向上研修をいわて県民情報交流センター(アイーナ)4階県民プラザにて開催し、70名程が参加しました。ジャーナリストであり組織・企業における女性活躍問題に造詣が深い浜田敬子氏をゲストとして招き、「本気で考える岩手のダイバーシティ～女性活躍の観点から～」をテーマに、岩手県における女性活躍・ダイバーシティ推進に必要な取組や意識醸成等について本学の海妻径子副学長・ダイバーシティ推進室長との対談形式でトークショーを行いました。

トークショーでは、男性中心の職場環境で働いてきた浜田氏ご自身の経験や取材した企業の取組事例を交えながら、ダイバーシティ推進のために男性リーダーに求められること、後進となる女性社員への接し方、人手不足の地方で人材を確保し成長するための組織の在り方等についてお話いただきました。浜田氏は、「世代が変われば同じ働き方は通用しない。職場が変わるしかない」「その人が一番やりやすい働き方で働くと、必ず能力を発揮できる」「性別や年齢等によらずにチャンスがある会社は広く若い人を惹きつける。地方でもできることはある」と、働き手に合わせた組織側の変化が必要であることを訴えました。また、働く女性側は一人で悶々とせず、仕事で成果を出すために働き方を変える必要があることを、職場あるいは家庭で提案、交渉していくことが重要であると伝えました。

参加者の満足度は大変高く、「女性活躍やダイバーシティはテーマが大きく自分にできることは少ないと感じていたが、日々の生活の中でできることが多いと分かった」「ダイバーシティの意義や女性差別をなくす必要性を働く視点から考えることができた」といった声が寄せられ、女性活躍・ダイバーシティ推進について県内各地からご参加いただいた皆さんと考える機会となりました。

本学では、文部科学省の補助事業を進める中で、産学官連携コーディネーターとなり得る人材育成、女性リーダー育成などを支援しており、本セミナーは、企業と地域、研究者がつながる機会にもなりました。

また、同日は、本学が女性活躍・ダイバーシティ推進のための資金として活用している「すずらん基金」を紹介するコーナーや企業展示などのブースを設置し、来場者の皆様に理解を求めました。



左:海妻径子岩手大学副学長 右:浜田敬子氏



## PI力(研究室主宰能力)向上研修 「知っておきたい! 大学における性被害・性暴力への対応方法」

2023年9月1日、PI力向上研修「知っておきたい! 大学における性被害・性暴力への対応方法」(主催:岩手大学ダイバーシティ推進室)を岩手大学北桐ホールにてハイブリッド(会場/オンライン)で開催しました。

性被害者等から相談を受けた場合の対応のあり方、配慮すべき点などについて、会場6名、オンライン(Zoom)52名、計58名の参加者と考えました。

島根大学副学長・松江保健管理センターセンター長の河野美江氏(オンライン)、兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご理事の田口奈緒氏を講師に迎え、大学内で性被害・性暴力が生じたときの適切な対応について、それぞれのお立場からお話いただきました。

初めに河野先生から「大学における性暴力への対応～予防から被害者支援まで～」と題して、次に、田口先生から「学校における性暴力対応～危機対応手引き作成の経験から～」と題して、ご講演いただきました。

参加者アンケートからは、「初動対応が大事、ということは頭では分かっていたが、二次被害を起こすリスクも伴う初動対応というそんなタイミングに、先ず何をすべきかを示していただき、大変為になった」「こういった問題に対してはプロではない教員が対応する場合、具体的にどのように対応すればよいのか示されることがなかったため、モヤモヤしていた。今回のお二人の先生方のご講演において、予防法や対処法をわかりやすく説明いただいたことで、すっきりした。」などの声が寄せられ、性被害・性暴力が生じたときの適切な対応の重要性について考える機会となりました。



島根大学副学長・松江保健管理センターセンター長  
河野美江氏



兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長  
NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご理事  
田口奈緒氏



研修会場の様子

## 北東北女性研究者・研究交流フェア2023開催 PI力(研究室主宰能力)向上研修「女性リーダー育成に立ちはだかる壁を破る」



東京家政学院大学 特任教授 野村浩子氏

2023年9月22日、北東北女性研究者研究交流フェア2023(主催:岩手大学ダイバーシティ推進室、共催:いわて女性リーダー職研究者ネットワーク・北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ)を開催しました。フェアの第1部は、PI力向上研修をハイブリッド(会場/オンライン)にて開催し、東京家政学院大学特任教授の野村浩子氏を講師に迎え、政財界の意志決定の場における女性比率の現状や国立大学協会が実施したアンケート結果から見える課題の乗り越え方、リーダーに必要な資質を培う方法について、25名の参加者と考えました。

野村特任教授は、「男性中心型組織の時代は終わった。求められるリーダー像が変化している」とし「多様性を生かすことが、組織の価値向上に

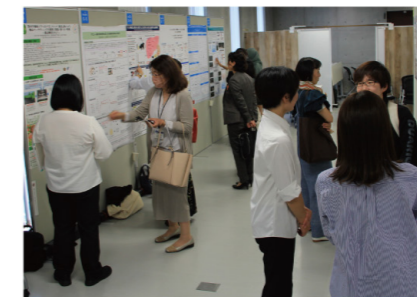
つながる」「女性の力を生かす職場づくりが変化のトリガーとなる」「異質な目がガバナンスを強化する」とダイバーシティ推進の必要性について共有しました。また、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)を正すには、1、教育(研修)で気付きを促す 2、行動を変える仕組みを作る(評価制度など) 3、強制力をもって変化を促す(クォータ制)など垣根を超えて、ジェンダーバランスを問い直す必要性や、この課題解決に向け大学が「ハブ」となる可能性についてと合わせてご自身の考え方を述べました。

第2部では、4年ぶりに参加者同士のランチ交流会、ポスターセッションを対面で開催しました。第1部第2部延べ70名の参加者が交流し、女性研究者としての悩みや女性リーダーとしての課題等を共有し、考える時間をもちました。

参加者からは「経済、経営的な戦略の問題と、世の中で信じられている多くの偏見の問題を切り分けて合理的に説明していただき、この問題について少し明るい気持ちで考えられるようになった気がする」「同じ分野の研究者と良い出会い・ディスカッションの場になった。よい経験になった」などの声が寄せられました。



ランチミーティングの様子



ポスターセッションの様子



ポスターセッションの様子

## PI力(研究室主宰能力)向上研修 ダイバーシティ&インクルーシブなチーム運営のためのセミナー 「発達障害がある人とともに働く」



岩手県発達障害者支援センターウィズ  
主任臨床心理士兼主任相談支援員 高橋愛子氏

2024年2月29日、PI力向上研修を岩手大学北桐ホールにてハイブリッド(会場/オンライン)で開催し、来場者9名、オンライン(Zoom)35名、計44名が参加しました。

岩手県発達障害者支援センターウィズ主任臨床心理士兼主任相談支援員の高橋愛子氏、一般社団法人職業リハビリテーション協会理事の宇野京子氏を迎え、発達障害がある人の雇用に着目し、発達障害がある人とともに働くことで生まれる可能性や、すべての学生・教職員にとって学び働きやすい大学の環境を考える機会となりました。多様な人材がそれぞれの能力を発揮できる職場環境をつくっていくことは、本学が目指す大学像であり、学生、教職員との共考と協創にとってとても重要です。初めに「大人の発達障害の特性と関わり方、配慮について」と題し高橋愛子氏、「障害者雇用の現状と定着支援対策について国立大学全国調査と実践知から」と題し宇野京子氏にご講演いただきました。

参加者からは「発達障害がある人と働く環境を構築・整備するために必要な配慮や心がけを再認識でき大変有意義だった。これらの配慮等は発達障害がない人にも大切なものであるとも考えられ、発達障害の有無にかかわらずご教示いただいた対応・配慮を行うことが第一歩であると感じた」「まずはどのような相手であってもできるだけ相手の立場から見える世界を想像し、可能な範囲で一緒に考え、チームとして協力しながら業務にあたる必要があることを認識した」など、発達障害や障害者雇用への認識、障害の有無を問わず相手の立場や状況に配慮することの大切さについて、理解が深まった様子が伺えるコメントが寄せられました。



一般社団法人職業リハビリテーション協会  
理事 宇野京子氏